

Abstract

This study aims to find the relation between human feeling and using shapes and colors. Human get 80% of their information by their sense of sight and when they saw the picture, mostly same song chosen by human and system using color information. We survey 1st and 2nd year students with colored shapes. We find most people have similar responses to the same colors and shapes they were shown.

目的

舞台での演出方法の一つである映像演出には、様々な図形が用いられ、またそれらは観客の感情に働きかける必要があると考えた。本研究では、単純な図形の「形と色」がヒトにもたらす感情を明らかにすることを目的とした。

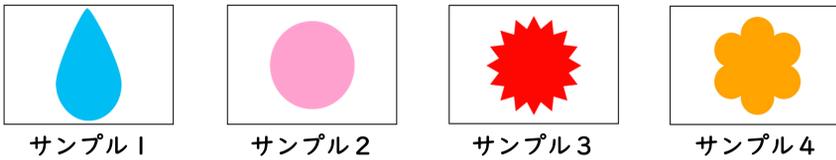
先行研究

1. ヒトは約8割の情報を視覚から得ている。
2. 写真を見てそれに合う曲を選ぶ実験において、ヒトが選んだものと色彩情報から選ばれた曲がほとんど一致した。
→モノの形と色がヒトの感情に影響するのではないか

実験 1

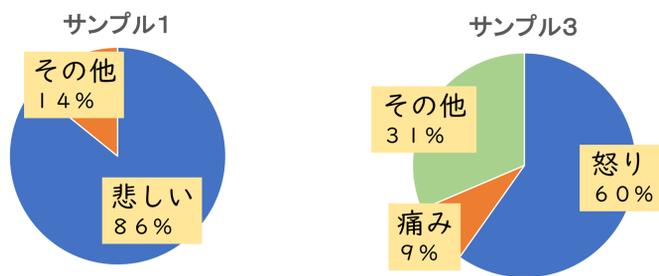
目的：簡単な図形から受け取られる感情を明らかにする

本校1・2年生308名を対象にアンケート調査を行った。喜怒哀楽をイメージして作成した4つのサンプル図形を使用し、それらが表す感情の回答を記述式で得た。



【結果】

- サンプル1・3
→それぞれある程度回答が一致した。
- サンプル2・4
→どちらも**正の感情**の回答が多くみられたが、サンプル1・3に比べ、回答は一致しなかった。



【考察】

サンプル1を哀、サンプル2を喜、サンプル3を怒、サンプル4を楽として制作した。結果より、**負の感情**であるサンプル1・3の方がサンプル2・4と比べ回答が一致しているため、より共通した感情をもたらしていると考えられる。

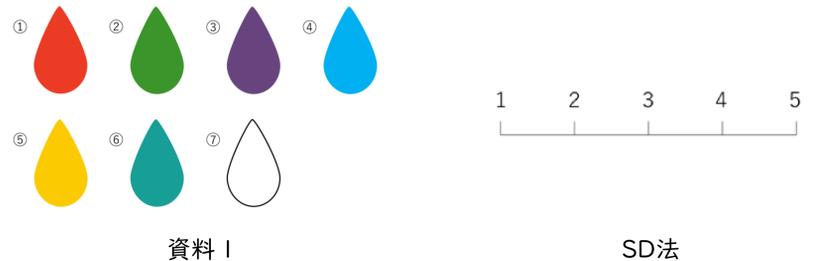
また、図形の形も色もサンプルごとに異なっていたため、どちらが結果に影響していたかはわからないので、今後の実験で明らかにする。

実験 2

目的：実験1において、色彩がどれだけ影響したかを明らかにする

実験1で用いたサンプル1の色のみを変えた7つのサンプル図形(資料1)を使用する。それらの図形をSD法によって、5つの項目で評価してもらう。

図形に用いる色の抽出はマンセル表色系から行い、今回は①5R, ②5G, ③5P, ⑤5Y, ⑥5Bを用いた。また、④はサンプル1と同様、⑦は無色である。



【予想】

色と形のどちらか一方が感情の認識に著しい影響をもたらすことはなく、**相乗効果**によるものと考えられる。そのため、本実験では色彩のみに注目しているが、ある程度の影響を与えると予想する。

今後の展望

- 実験2のアンケートの集計・考察
- **図形の形**に焦点を当てた実験の実施
- 実際の映像演出に応用できるようなシステムの作成

謝辞

本研究を行うにあたってご指導くださった大石明徳先生、並びにアンケートの回答にご協力くださった方々へ厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

参考資料

- 桐本篤,佐々木史織,清木康(2008)「風景画像とサンプル楽曲を用いた環境状況コンテキスト対応型音楽推薦システムの実現」,一般社団法人情報処理学会,146,157-162.
- 佐藤敬子,尾田政臣(2014)「色付き図形の美的評価に及ぼす色彩と形態の効果」日本感性工学会,13,561-569.
- 井上正明,小林利宣(1985)「日本におけるSD法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観」,日本教育心理学会,33,253-260.